

祖先の家系を大切にする一方で誇示する傾向も強かった。その現れがこのような考えさせる系図として残ったのではあるまいか。

主な参考図書

鶴藩略史 佐伯志 佐伯市史 愛智郡志（愛東町提供）
全国歴史散歩「滋賀愛知編」（河出書房） 日本分県地
図（人文社） 日本歴史シリーズ（世界文化社） 歴史
群像（学研） 別冊歴史読本（新人物往来社） 人物日
本の歴史（小学館） 日本の合戦（人物往来社） 日本
人物総覧（新人物往来社） 大日本人名辞典（講談社）
城つてなんだろう（愛東町提供） 民族流入年表（愛東
町提供） 日本地誌（二宮書店）

表紙解説

城山は標高僅か一四四米の小さな山です。その山頂には毛利藩二万石の城跡があり、苔むした石垣に昔日の面影を偲び、うつ蒼と茂る老木に歴史の重みを思わずにはいられません。

今から丁度百年の昔、佐伯に教師として赴任して来た文豪国木田独歩は、好んでこの山に登り称賛しています。佐伯を離れて他郷に住む人達が古里の山河を思う時、先ず險に浮かぶのは城山の姿ではないでしょうか。

今は市民の憩いの場として、或いは健康保持のため登山する人は終日絶えることがありません。

この絵は昭和三十年代の初め、佐伯市職が発行していた機関紙（今は廃刊）の表紙に請われて書いたそうです。この絵に秘められた温もりと自然の美しさに惹かれ、今回菅家の承諾も得て掲載しました。